

コース内容 消化器科

研修責任者

堀江 義則 (日本消化器病学会専門医、日本消化器病学会関東支部評議員、日本肝臓学会専門医、日本肝臓学会東部会評議員、日本消化器内視鏡学会専門医)
元慶應義塾大学医学部講師、現慶應義塾大学医学部非常勤講師(木曜日午後、慶應義塾大学病院にて外来診療)

指導医

一松 収

菊池 真大

他、慶應義塾大学病院消化器科内科スタッフが subspecialty を生かして 10 人程度外来業務や内視鏡治療に派遣されており、学生教育(慶應義塾大学はもとより、筑波大学など他大学の学生実習も受け入れています。)や研修指導にも協力していただいています。

研修内容

後期研修の期間中、日本消化器病学会専門医研修カリキュラムのうち、達成目標 A(独立して行える必要がある手技や経験する必要がある疾患)を中心に研修します。(詳細は財団法人日本消化器病学会のホームページをご参照ください。)

初年度は、内科医としての基礎研修のため全内科をローテートしてもらいます。基礎的な疾患を中心に幅広く(広く浅く)研修してもらいます。上部消化器内視鏡など、消化器内科に必須の手技は、希望すれば通年研修できます。

次年度以降は、各種消化器癌の化学療法、劇症肝炎、自己免疫性肝炎、潰瘍性大腸炎やクローン病など専門性の高い消化器疾患を研修してもらいます。内視鏡研修も、スタッフがマンツーマンの指導体制をとっています。3年目以降研修ではバックアップのみで対応できるよう、2年目に十分な経験を積んでもらいます。

専門性の高い一部の手技(大腸鏡や ERCP など)も、希望があれば積極的に参加してもらっています。3年目以降研修を続ける場合は、達成目標 B、C の手技、疾患とあわせて研修を行います。画像診断や造影検査は、放射線科の協力を得て研修を行います。

すでに、3年目以降に消化器内科専門医を目指すことを決めている方は、達成目標の範囲を広げて研

修を行なうことを検討します。

なお、当院は、日本消化器病学会の関連施設となっており、当院での研修は、日本消化器病学会、日本肝臓学会専門医取得のための研修期間に含まれます。(詳細は財団法人日本消化器病学会、日本肝臓学会のホームページをご参照ください。)

また、ESDや肝移植のコーディネーターなど、高度先進医療など専門性の高い研修を希望される方には、慶應義塾大学医学部消化器内科での研修を優先的に受けられるよう配慮いたします。まず、市中病院で研修してから、将来大学病院での勤務を希望される方の研修も歓迎いたします。当院でも劇症肝炎に対する血漿交換や、潰瘍性大腸炎に対する白血球除去療法など高度先進医療も研修できます。部長の堀江は元慶應義塾大学医学部講師で、現在も非常勤講師を務めており、大学在籍中の業績はもとより、現在でも臨床研究を中心に論文を多数執筆しており、臨床研究を希望する研修医には学会雑誌への論文投稿を含めた指導体制を確立しています。

診療実績

1ヶ月の外来受診患者数は1,400人程度で、入院延べ患者数も1,000人以上です。1日あたりの平均入院患者数も30人以上で、現在スタッフは3人と後期研修医で担当しており、十分な症例が経験できます。

診療体制

消化器内科研修中は、外来を週2回と上部消化管内視鏡検査週1回を定期で担当してもらい、適宜下部消化管や胆道系の検査にもついでしてもらいます。

研修例

	月	火	水	木	金	土
午前	外来	上部内視鏡	病棟	病棟	外来	当番制で外来
午後	病棟	ERCPなど	下部内視鏡	救急診療	病棟	
その他	内科 カンファレンス		消化器 カンファレンス			